

今こそ暮らしと平和、命が大切にされる政治を

第81回メーデー上越集会開かれる

少し風はあったものの雲ひとつない五月晴れの下、働きの祭典、メーデーが行われました。午後2時から高田雁木通りプラザ四階で行われた「メーデー上越集会」には、組合旗が林立し、たくさんの人たちが集まりました。日本共産党市議団も全員が参加、激励しました。

実行委員長である地区労連議長**の布施辰夫氏**（JAえちご上越労組委員長）が開会の挨拶に立ち、「国民の期待とは違って後期高齢者医療制度の廃止先送りだけでなく差別医療を65歳からに広げるなどの医療改悪、労働者派遣法の骨抜き『改正』、沖縄基地の県内・国内たらい回しなど政治はますます混迷を深めている」「経済、雇用でも待たなしの状況だ。今こそ暮らしと平和、命が大切にされる政治をみんなの力で実現させよう」と訴えました。

来賓の祝辞では、上越市長代理の澤海産業観光部長が、「地域経済に活力を与えるために、2月の臨時議会で決めた20億円の補正予算や新年度の予算をしっかりと実行してゆく」と村山市長のメッセージを代読。日本共産党上越地区委員会の橋本正幸副委員長は、この集会を雇用と平和、民主主義を守り、政治を進める決起の場にしようと呼びました。

全医労犀潟支部や建公労、昨年発足した青年ユニオンなど、地区労連に結集する各組合の代表から力強い「政治を変えよう」との決意表明が行われ、集会名でいのちとくらしを守る「メーデー宣言」が採択されました。

参加者は3時半に会場前を出発、高田駅前を経て上越大通りを通り、陸上競技場まで元気にシユプレヒコールをあげながらデモ行進しました。

直江津新図書館・社会教育館の駐車場問題で委員間討議 「近くに駐車場を確保することが必要」 で意見が一致、議長に報告

4月30日午後2時から、文教経済常任委員会の意見交換会(議員間討議)が行われました。

直江津の駅前にできる『(仮称)直江の津・学びの交流館』(新図書館・社会教育館)駐車場問題での検討学習会として開かれました。

駐車場は施設前に28台分、駅南口に約70台分を確保することになっています。

教育委員会は、「施設前の28台分についてはすべて身障者や高齢者、妊婦や乳幼児連れの皆さん専用にし、それ以外の人たちは駅南口にある駐車場を利用」することを提案しています。今回の委員会討議はこの提案についてどうするかを含めて駐車場問題全体について意見を出し合いました。

施設前の28台分の利用については、「一般の健常



10月のオープンに向けて工事進む

者にも開放するべきではないか」という意見と「今の現状の中では利用者を限定するのは仕方がない」という意見で分かれました。

上野議員は「駐車場はこのような問題点を初めから内包していたし、常任委員会でもずっと議論してきた問題。新しい図書館は児童コーナーやお話コーナー、また乳幼児プレールームなどが整備されていて、乳幼児連れの人たちがたくさん利用すると思われることから、施設前の駐車場の利用

者を限定することは今の時点ではやむをえないが、それですむということではない」「根本的には施設の近くに民間の空スペースを借りたりして、駐車場を確保することが必要だ。教育委員会側にきちんと確保の努力をするよう委員会としての意見を伝えるべきだ」と主張しました。

常任委員長は今回の意見を議長に伝え、その後教育委員会側に議会としてしっかりと申し入れることを、全員一致で決めました。



開会挨拶をする地区労連議長の布施辰夫氏



元気にデモ行進

日本共産党上越市議員団ニュース

No.232 2010年5月9日

連絡先	橋爪 法一	548-3628	(吉川区代石)
	樋口 良子	544-6802	(中門前3)
	上野 公悦	530-2203	(頸城区中柳町)
	平良木 哲也	525-9096	(上中田)



「世界の宝・憲法を守ろう！政治を変えよう！」

日本共産党市会議員団、元気に訴え

5月3日憲法記念日、日本共産党上越市議会議員団は、朝9時半から夕方まで広い上越市内を宣伝カーでまわり、「世界の宝・憲法を守ろう。暮らし・福祉最優先の政治をみんなで力を合わせ

て実現しよう！」と訴えました。農作業の手を休めて手を振る人、車ですれちがうときにクラクションを鳴らすドライバーなど、たくさんの人たちから激励を受けました。